



知ってもらいたい里親制度〜私のプチ里親体験を通して〜

今日は、鈴木先生が最近ハマっているアニメがあると小耳に挟みましたけれども。

はー「SPY×FAMILY」じゃー。

流行ってますね。

大好きです！(笑)

私も毎週配信で届くのを楽しみに、ウキウキしながら見てますよ。どうですか？どの辺りにはまっていますか？

あれは子育てという視点から、すごく胸に響く名言が連発されてるんですよ。感心します。

やっぱり鈴木先生の見る角度っていうのがね、ちょっと違いますよね。

もちろん、スパイ活動も面白いですけどね。あれは里親と里子の話ですよ。

里親と里子と言うと血縁関係はないんですね、家族だけじゃ。

そうですね。スパイをするために作られた一時的な家族ですね。

娘がアーニヤって言うんですけど、そのアーニヤをいかにやる気にさせるかとか、スパイで里親のロイドさんが親として言葉をかけるんですが、確かに響きますね。

アーニヤは「うん」っては何んですが、デキが悪いわけですよ。スパイ活動に協力するには勉強も運動もできず、役に立ってるとは言えない。その子をロイドさんが一生懸命、応援しながら良い方向に持っていくようにする、そのドタバタが面白いです。それに本当の家族になろうと、信頼関係を築こうとする様子がね、すごい学びがありますね。

確かにある目的のためだけに集まった三人なんですが、ちゃんと子どもがやる気になるような言葉や促し方がいいですね。それに、焦らずイライラをぶつけたりしない。子どものいいところを伸ばせばいいじゃないか、とていっとう違う言葉や行動に置き換えていくっていうのは、マニメとは言え、勉強になります。

RNC 西日本放送ラジオ番組

CHIT CHAT RADIO 子育て CHAT ROOM

2022年6月21日 15時12分～15時38分

種類としては養育里親が一番多くて、一定期間子どもと一緒に暮らして養育する人のことなんですね。基本的には実親の元で暮らすまで、または十八歳までで一週間ぐらいから年単位のこともあります。それは、委託になった経緯や実親家庭の事情によります。例えばお母さんが病気で入院の場合は短期でしょうし、虐待など不適切な家庭環境が原因なら長期の委託が必要です。特に、虐待や心身障害など特別な背景をもつ子どもは、専門里親(養育里親歴三年以上で、研修を受けた人)に委託されます。

あとは特別養子縁組ですね。子どもを実子として育てるので、名字も変わりますし、里親手当も支給されません。子どもがいらない夫婦が希望される場合もありますが、十八歳で里親の委託措置が解除されても自立が難しいので、養子にして面倒をみるという人もいます。

私は土日担当があったり、子どもを十分養育できるという環境ではないので、一ヶ月に一回ぐらい週末里親をやっています。施設に暮らしている子どもと週末一緒に過ごすだけです。泊まることもあるし、時間がなければ日中会うだけのこともあります。

—週末だけの里親ですか？

はい、余裕がある時だけちょっとお家に来て一緒にご飯食べたり、おやつを作ったり、団らんしたり。そういう生活体験がすごく大事なことだと思うので。

—週末里親って初めて聞きましたが、香川では利用されてる方は多いんですか？

五、六人だそうです。週末や長期休みに実親さんのところに戻る子どももいるし、ずっと施設でいる子どももいるんですね。だからそういう子のために週末とか、長期休みの時にちょっと遊びに行けるっていう所があるといいですよ。

—以前、新聞で読んだのが、何年も子どもを養育してきた里親さんが、里子を一人迎えただけけれども、相性が悪くて里親さんの方が精神的に病んでしまったと。そういったケースが全国的に見ても、よくあることなんだっていう報道を目にしました。僕もね、もし里親やるってなるとかなりの覚悟と自己犠牲が必要だと思っんです。子どもにすべてを捧げるべからいの思いがないと里親は務まらないんじゃないかなって。既に自我が芽生えた子どもを家に迎え入れるわけですから、相性もあるし、その難しさをやっぱりあるもんですか？

そうですね、やっぱり合わなくて返される、里親が何回も変わるっていうのは子どもにとっても負担になるので、児童相談所はすごく慎重になりますね。なので委託されるまでに何ヶ月もマッチングに時間をかけます。里親さんが施設に行つて、里子候補さんと一時間ぐらいお話しする。次の週は二時間話す、次は短時間外出する、次は外泊するっていうのを何ヶ月もかけて、相性が合うかを慎重に見極めるんですね。

「ここまでしても里親との生活がうまくいかないことはもちろんあります。だから、里親と里子を支える体制がとても大事です。委託して終わりではなく、里親さんの悩みを聞いたり、他の里親体験を共有したり、子育てや子どもの心について学んだりする機会が絶対に必要です。香川県でも里親の交流会や勉強会があります。

―なるほど。週末里親に関しても難しい面があるんですか？

週末里親は、私の場合ですが、施設に一度子どもに会いに行つて、その子が私の所に行きたいと言つてくれたので、来るようになりました。もちろん、私と合わないから行きたくないと言えば、それきりですが、いつも帰りの車の中で「次はいつ会えるん？」つて聞いてくれるので、うちを気に入ってくれたのかな。

―先生が里親として心がけていることってどんなことなんですか？

そうですね、特別なことをしないことかな。私たち日本人ってホスピタリティに溢れてるから、すごくおもてなししちゃうと頑張っちゃうんですよ。でも、疲れちゃいますよね。すごい美味しい物作つてあげなきゃ、あちこち連れてつてあげなきゃって気負い過ぎて疲れちゃう。だから、うちに来たらお互い好きに過ごすようにしてますね。その子は絵が好きなので、ずっとiPadで絵を描いてて、私は、隣でNetflixの映画見たり。時々、思いついたように学校や施設、友達、好きなアニメや推しの話したり、お茶飲んだり、おやつ食べたり。で、イラストが「上手に描けたー」つて嬉しそうに見せてくれるので、「すごい、上手ー」つて感想言ったり。

―確かに子どももずっとお客様扱いだと敏感になって、逆に気を使って居心地が悪くなるってところもあるんじゃないかな。

そうかなつて思つて。私も聞いてみたんです。せつかく来てくれるから、二人で一緒にトランプやらボードゲームした方がいいのかなつて。そしたら、「今のままでいい」つて言われて。中学生だし、あんまり構いすぎない方がいいのかなつて。でも、花見や外食に付き合ってもらつたりもしましたけどね。

―先生が週末里親し始めてどれくらい経つてるんですか？

九ヶ月ですね。

―同じ子で？

そうですね。

—同じ子っていうことですが、最初の頃と今とでは何か変わったことってあるんですか？

そうですね。よりフレンドリーに、自由な感じになってきた感じかな。遠慮なく食べてくれるので夫も喜んで。夫がご飯作る人だから、「好きなだけ食べて、お代わりしていいな、気を遣わない子でいいな」って言ってます。

—その自然体ってすごく大事なことですよね。

—また先生の旦那さん、料理人ですからね。絶対美味しい！私も行きたいぐらいです。(笑)料理人の方は、美味しそうに喜んでいっぱい食べてくれるのがやっぱり嬉しいですよ。

そうですね、夫は喜んでますね。来ても一言くらいしか喋ってないですけど。

私たちって真面目で責任感強くて、覚悟をもって里親するので、そういう思いは素晴らしいけど、やっぱり疲れちゃうんですね。里子との関係や、里子の生活がうまく軌道に乗らず不登校や体調不良になったりして悩むんですね。でもそれは実子を育てると同じですね。親も話を聞いてもらったり、休む時間が必要です。

もう何年もしているベテランの里親さんもたくさんいらっしゃいます。大変な中にも里子がすくすく大きくなって、十八歳になって家出て行きますけど、進学就職しても、時々実家のよりに帰ってくるそうです。結婚したらお嫁さんや子ども連れてきて、正月やお盆は大宴会になるそうです。そういうふうには十八歳以降もずっと関係を続けられるのは素敵ですよ。里親との出会いが、里子の未来をぐっと変えることができるんですよ。

もちろん施設でも、職員さんが一生懸命子どもを育てられてますが、施設は実家にならないですよ。帰ってくる場所ではない。子どもが自立して頑張れるのは、帰る場所があるからですよ。だから施設よりも里親がいいっていうのは、長い人生の中で、里親さんの家が良いガソリンスタンドになってエネルギー補給する場所になり得るからなんだと思います。

—今、香川は九十世帯弱の登録がある。先生的にはどれぐらいの数がいいですか？

そうですね。一校区に一人里親さんがいるといいねっていう話にはなってます。そうすると三三三の人数が必要になりますね。

—三倍、じゃあ二百七十？

そうですね。

— どういった方が里親に向いているというか、里親に求められる力っていうのは、今、自然体っていう話もありましたけど、どっぴったるところになつてきますか？

やっぱり要保護児童の養育に理解があるということですね。知識は研修を受けたら得られますが、あとは熱意や豊かな愛情ですね。子どもを愛したい、大事にしたいという人間的な気持ちですね。それがあの人だったら誰でも。

— だから特別なことはしなくてよくて、人として、子どもに対してその愛情がしっかりとある方が、里親という大事な勤めを果たすことができるというわけなんですね。

そうですね。だから子育てしたことない人も、実子が成人して家に子どもがいない中高年の夫婦も、現在実子が幼児〜高校生だけど、里子を受け入れる人もいます。

— そうですね。海外は割と実子の子育ての一部として里子を迎えることがあると聞くんですが、日本ではなかなかそういう考えに至らないというか。そこが海外とは開きがあるのかなど。

そうですね。里親は何年もやると思うと構えちゃいますけど、週末だけならいいかなと思えるじゃないですか。夫も最初はすごく構えてて、里親なんて無理って言っていました。でも、週末に来て美味しい美味しいってご飯食べてもらったり、案外大丈夫だったりする。今度は一週間ぐらいならいいかなとか、だんだん伸ばしていけると思うんですよ。だから、まずは短期間やつてみてもらえたらいいと思います。責任感はすごく大事だし、必要だと思うんですけど、一緒に楽しむことも大事だと思います。

うちに週末くる子に「何が食べたい？」って聞いたら、施設ではなまもの禁止なので、「卵かけごはんを数年食べてない」って言ったんですよ。それで一緒に卵かけご飯用のいい卵を買いに行つて食べました。そしたら、とっても美味しかったんです。その子がいたから、美味しい卵の体験ができたんですね。それから、彼女が好きなアニメや推しのアーティストのことを教えてくれて、私も観たり聞いたりして、新しい世界を楽しませてもらっています。

— お互い、いい時間が過いでいるんだなって思います。では、例えば今日の話を聞いて、少し里親の話が聞いてみたいという方はどうすればいいんでしょうか？

高松は子ども女性相談センター、丸亀は「西部子ども相談センター」に連絡してみてください。

— ぜひ一度「覧」になっていただけたらと思います。鈴木先生、今日もありがとうございました。

ありがとうございました。